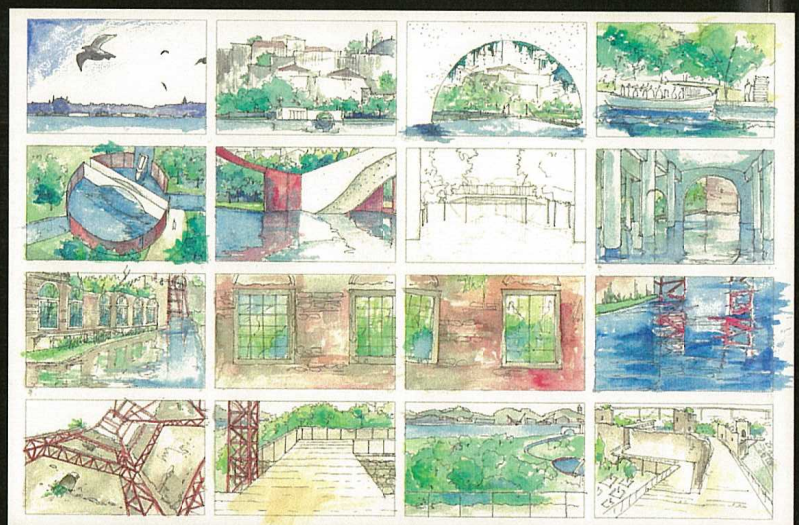
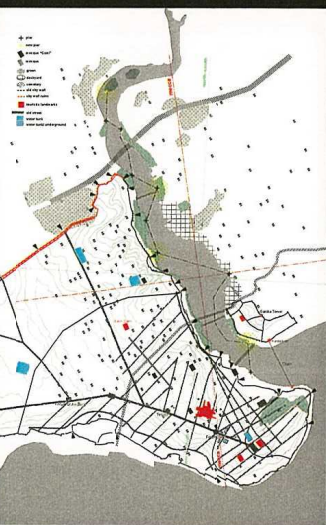
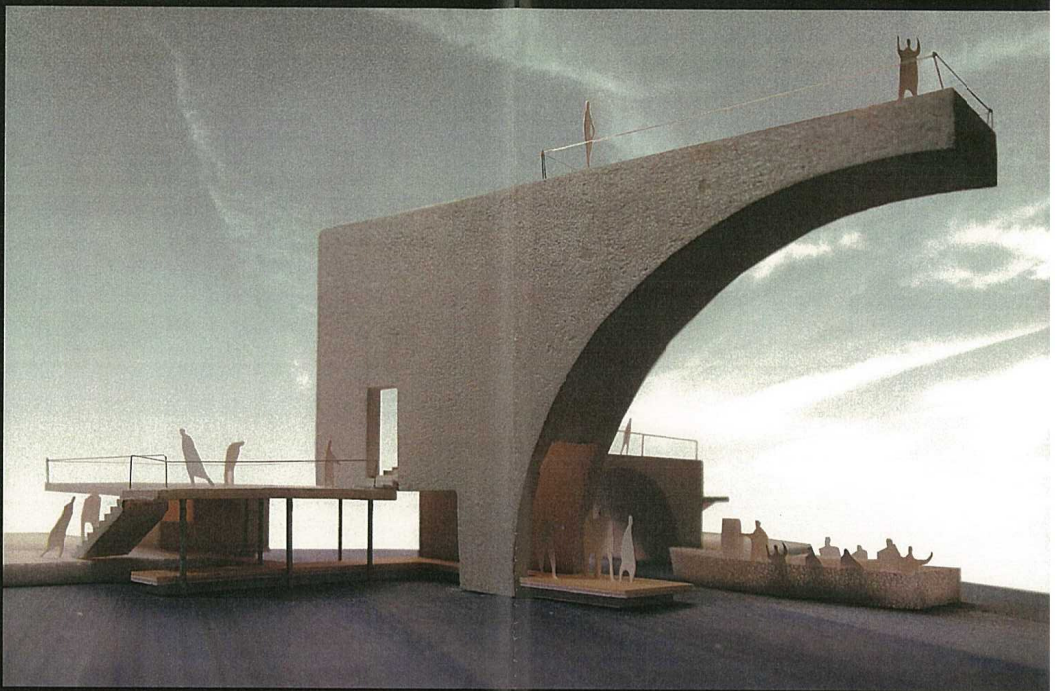
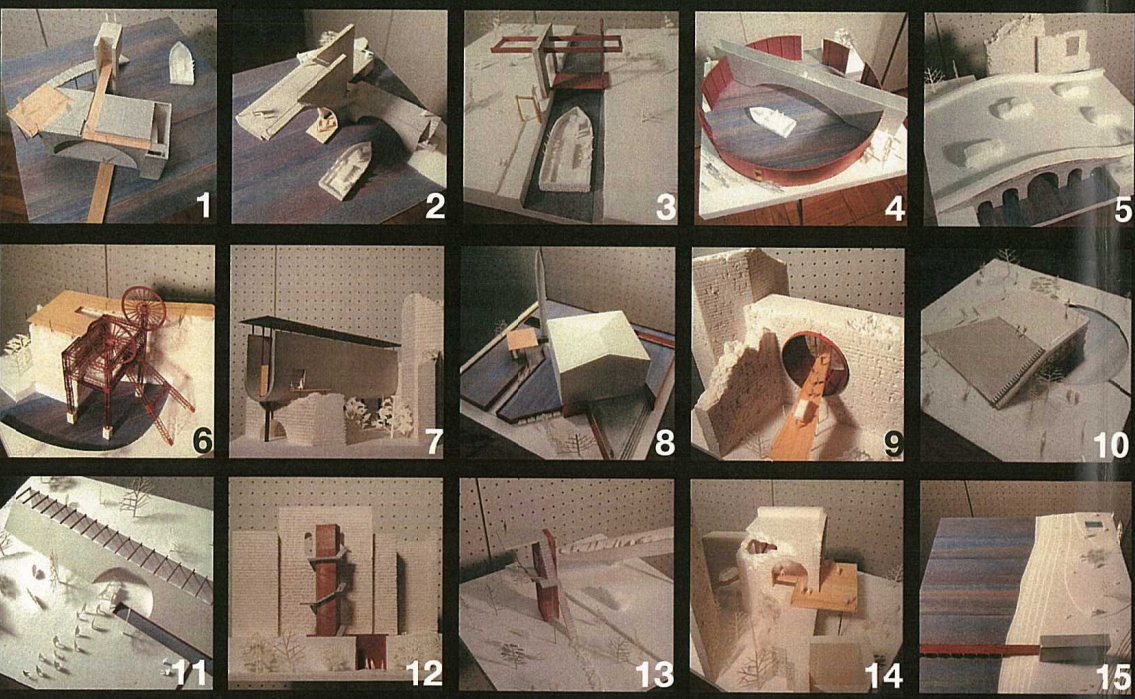


異邦人の日常

トルコ・イスタンブール金角湾周辺地区の再構築

大島 碧

本計画は、イスタンブールの二つの地区を隔てる Golden Horn 金角湾を巡るフェリーの停留所を再編しながら、街にある既存の境界を再構築し、都市に新たな物語を築くことを目的とする。ここで一か月暮らした異邦人としての「わたし」の視点を通して、都市の日常を拡大する。そこから拡大された日常を巡る一つの船旅を提案する。建築はフェリーの停留所と都市内部とのインターフェースとなる。同時に、多様な人々のアクティビティを受け止めながら、イスタンブールの人々の日々の生活を支え彩る場となる。既存の要素を再構成しながら、それぞれの場所でのストーリーを拾い上げていき、最終的には金角湾を巡る船旅が、連作の短編小説のように一つのまとまりを形成する。



Golden Horn の湾口から湾奥へ向かう既存の 9 箇所のフェリーの停留所に対し、船の巡る一連のシーケンスを調節すると共にそれぞれを背景の都市から浮かび上がらせる。終点となるうさぎ島に新たに停留所を設置し、計 10 箇所の棧橋をもつこととし、所要時間は往復で一時間ほどとなる。停留所は水際が都市内部にまで延びていき、海沿線と陸の境界を既存の線地部分全体まで引き延ばす。

両岸の風景の間をたゆまないながら、湾の入り口から奥へ進んでいくと、水はだんだん静かになり、最後の棧橋は無人島に続いている。

このような金角湾の造景計画の序章として、前出の第 2 章でリサーチを行った 3 つの最も重要な地点を設定した。湾の入り口と最奥部、そして、かつて都市の内外を隔っていた城壁の废墟とその周辺部である。

